

白川町立小・中学校再編計画 地区説明会 会議録

1. 日 時 令和4年8月6日（土）午後7時32分から午後9時
2. 会 場 佐見ふれあいセンター
3. 参加者 22名
町教育委員会：鈴木教育長、大岩教育課長、玉置学校再編専門監、鈴木学校教育係長

4. 記 録

- (1) 開会あいさつ 大岩課長
- (2) 資料説明 鈴木教育長（19:33～20:00）
- (3) 質疑・意見等

○70代 男性A

・今後の児童生徒数の説明が無かったが、令和9年度に佐見小学校の人数はどうなっているか。

○鈴木教育長

・今年4月時点の資料で令和9年度の佐見小学校の人数は、全校で12人、その翌年は11人となる見込みである。

○20代 女性A

・資料の3ページで説明があったように、このような形で再編が進むことは仕方無いと思っている。しかし、そんな中でも若い世代にこの地域で子育てをしたいと思ってもらえるような施策も含めて考えるべきで、そうしないと将来的にこの地域を持続していくのは難しいと思う。私自身は佐見で育ち、地域の人達と多くの関わりを持ったことで佐見への愛着が深くなったと感じている。今年の4月に佐見へUターンすることを決意した要因の一つである。また、この地域で暮らす人達にとって、将来子供達が地元に戻ってくるために美しい環境を残すことがモチベーションになっているのではないか。今後統合が進むなか、佐見のような地域でも子育てをしたいと思ってもらえるような取り組みを地域と一緒に考えて欲しい。

○鈴木教育長

・教育委員会は学校教育や生涯学習が業務の範疇であるが、まちづくり全般の課題としてご提案いただいた意見は参考にすべきと感じた。子供の数が減り、学校の規模が小さくなくても指導によって学校教育の継続は可能である。子育てという広い視点で考えると学校以外にも色々な要素があり、空き校舎の問題に関しても、佐見小学校は立地的にはよい場所で構

造的には問題の無い建物なので、地域と相談しながら有効な活用ができないかと検討を始めたところである。学校については、町による非常勤講師の配置や外部との積極的な交流等により学校教育を進めていきたいと考えている。

○20代 女性A

・今後の方向性についてだが、地域住民に対しては今の説明で理解できると思うが、町外など外に住んでいる人に対しても情報発信ができるような体制や会議もあると良いと思うがどうか。

○鈴木教育長

・とても良い提案だと思う。情報発信については、様々な方法を考えたいと思う。

教育委員会は小・中学校だけでなく保育園も管轄している。本町は子供が生まれる前から中学校を卒業するまで一貫した見守りができる体制を平成11年頃から整備してきた。子供の数としては減少するが、子育てに関する相談や心配事など、保・小・中の連携を大切にし、地味な取り組みではあるが、町として注力している。こうした取り組みをはじめ、ご提案頂いた教育に関する情報発信は工夫しながら進めていきたい。

○70代 男性B

・今提案があったように佐見で子育てをする人が増えるような活動ができないかと感じていた。私の娘婿も萩原で英語塾を経営しているが、佐見の地域で塾が行えないかと考えている。佐見の子育て環境をうまくアピールすることを大切にしたいと思う。先ほど教育委員会から説明があった非常勤講師の配置をはじめ、地域住民との交流、連携を学校運営にうまく取り入れることが大切だと感じた。

○鈴木教育長

・佐見小学校のホームページにブログがあり、佐見小学校はほぼ毎日写真付きで更新している。私も欠かさず楽しみに見ているが、色々な面白い活動をしているし、地域の方との交流する様子が非常に目に付く。先日行われた佐見小学校校舎ありがとうの会においても地域の方々の温かい関わりがあった。こうした佐見特有の取り組みをもう少し多くの人達に知ってもらえるような工夫も教育委員会として考えていきたい。

○玉置学校再編専門監

・私は小学校の引っ越しの関係もあり頻繁に佐見へお邪魔しているが、その際に佐見小学校の児童の様子を目にしてきた。4月の参観日では1、2年生が町探検の発表をしてくれた。

地域の方が子供達に佐見の歴史などを熱心に教え、それを子供たちが自分で発表する姿は堂々としていて、とても感動した。先日の校舎ありがとうの会でも、学校の歴史を子ども達が自分たちで上手にまとめ発表してくれた。そういう子ども達の活躍する姿を佐見ふれあいセンターでも見る事が出来るような仕掛けを行い、地域の方々がもっと気軽に学校へ来ていただけるような取り組みを行う予定である。

○60代 女性A

・今日の参加は保護者が少ないと感じているので、当事者としての意見や声はきちんと把握して頂きたい。昨年、保育園の保護者にアンケートをとったが、複式学級への不安を口にしていた。来年は新1年生が1人となるが、その保護者は大人数での環境において学ぶことを希望している。学校は残ったとして越境入学のようなことまで考えていたようである。そういう実情を地域の方にも知ってほしい。佐見地域の将来を考える会において、中学校は統合、小学校は継続という結論に至り、現状に至っているが、4年前のことなので、存続・統合を含めて保護者の思いをよく聞いて保護者の悩みに寄り沿った決断をお願いしたい。

○鈴木教育長

・統合、存続、校舎建設を組み合わせる本町の学校配置を考える現在のスタイルは、平成30年頃のアンケートからスタートし、地域での話し合いを繰り返しながら考えてきた構想である。当然、その間に子供の数は減少しているので、それも踏まえ地域との話し合いを進めてきたところであり、昨年は、保育園保護者との懇談を行った。その話し合いにおいては、賛成、反対など様々な意見があったことは承知している。存続でも統合でも課題はあるが、存続する中で成果を上げる指導方法などを考えてきたことが今に繋がっていることを理解して頂きたい。今後も保護者との意見交換は継続していきたい。

○50代 女性A

・潜在的なUターン希望者など、目には見えていない白川町での子育て希望者があると思う。その可能性としては本町出身者になるが、出身者でなくても希望する人はあると思う。佐見における教育の取り組みや学校や地域での子供たちの様子を知ってもらえるような仕組みや機会を考えて欲しい。

また、地域の中でも学校に協力したいという人もあると思うので、そうした地域人材とうまく連携できるようなコミュニケーションの場があると良い。地域住民の関わりが学校を盛り上げるような体制が出来ると学校を中心とした地域全体の活性化に繋がると思う。

○鈴木教育長

・学校統合や存続に限らず、地域の将来そのものを考えるアンケートや話し合いの場は大切だと感じる。佐見小学校の活動やこれまでの努力はブログで確認できるが、町としても子育て支援に関しては力を入れている。他の自治体よりも早くから取り組んできた経緯がある。子育て世代やUターン希望者等のニーズを学校教育に取り入れることが大切だと感じた。

○60代 男性A

・東白川村との学校統合は考えていないのか。以前からそのような提案はあったと思うが、東白川村と協議された経緯はあるか。

○鈴木教育長

・町内においても特に佐見や黒川は東白川村と距離的に近いので、東白川村の学校と統合したらどうかという声はあったが、実際には協議したことは無い。東白川村は独自での小中一貫校を考えている。手続きとしては組合教育委員会を作って議論することになるが、第一段階としての両首長による話し合いはこれまで行われていないし、両方を統合させることは現時点では考えていない。

○60代 女性A

・小さな小学校を存続させるための努力は確かに必要なことだと思う。一体型の小中学校と比べ、佐見や黒川は、教育的な格差が否めないと思うが、そこは格差と捉えず特徴として伸ばしていくという考えを持って欲しい。佐見の保護者には、白川小学校へ通わせたいという意見があるが、通学手段等は教育委員会で補償してもらえるのか。

○鈴木教育長

・格差でなく特徴を伸ばすという点はまさにそのとおりである。具体的な話しをされたが、佐见到住所があつて他の地区の学校へ通う場合は、住所を移せば可能であり、教育委員会規則で定められている。例外として特別な事情により地区外の学校へ通う区域外就学を行う場合があるが、送迎は保護者が行うことになり、ご質問にあつた通学等に対する町の支援や補償は無い。佐見小学校に関しては、子供の数が減り、寂しいという思いはあるが、学級としては2学級で1つになる。主に1・2年、3・4年、5・6年という学級となり人数の偏りはあるが、1人ということはない。来年の場合、現状で推移すると2年生は4人、1年生は1人の5人で1つの学級となる。たった1人の入学となるが、新2年生の4人が新入生の小学校生活の面倒を見てくれる。更に次年度では、1・2年生が3人という非常に小さな学級になるが、異年齢交流によりお互いにより関係性を築くことができる。これは非常に貴重

な経験で先生や保護者が大切にしていけることで、子供達も必ずたくましく育つものと確信している。人数の問題だけではないので、そうした本質的な部分を大切に教育を進めることが必要で決して諦めてはいけない、と私は思っている。

○20代 女性A

・先ほど保護者の意見について質問があったが、当事者意見を聴くことは大事だと思うが、それだけではないと思う。目指す姿や目標とする地域の将来像をきちんと話し合い、そのために必要なこと地域全体で考えるべきだと思う。学校が統合する時、子供達が自分の学校や地域に何も感じなくなってしまう事が地元への愛着が無くなる瞬間であり、そうならないようにしたい。今の取り組みを大切に、先生や保護者をはじめ地域全体で共有することが大切だと思う。

○鈴木教育長

・非常に重みのあるご意見だと感じた。7月19日に佐見小学校校舎ありがたいの会があったが、今の意見とは真逆で、子供たちが自ら作り上げ、自分達の言葉で発表をしてくれた。今回の学校移転は僅かな距離の移動かもしれないが、子供達にとっては愛着のある校舎を離れるという意味で複雑な思いをしたかもしれない。教育の中身、指導によって子供の心は形成されるので、これからも佐見小学校の先生方、子供達、地域と共に学校を運営していきたい。

○70代 男性A

・統合についてはこれまでも関わってきたが、義務教育学校の案については時機を視て、という表現になっており地元としては少し安心している。今年3月に閉校した郡上市の小川小学校の閉校時の児童数は5人だったが、そこと比べると人数的にはまだ佐見小学校は頑張れると思う。

○鈴木教育長

・義務教育学校の時機を見て、という言葉は以前から使っており、遠い将来の形のイメージとして示してきたが、町民には強いインパクトを与えるため、多くの方からその前に3小1中の説明をきちんとすべきとの意見を頂いた。義務教育学校の考え方そのものは令和2年1月に答申を出した時点から変えていない。変わった点としては、校舎建設に関し、令和8年3月の完成が町財政等の諸事情により令和10年3月に先延ばしになった点である。まずは3小1中体制の説明として地域説明会を進めているところである。

○玉置学校再編専門監

・佐見小学校は今年29日の2学期から新たに新校舎でスタートする。1学期までは1・2年は1階、3・4年は2階、5・6年は別で分かれていたが、2学期からは全て3階となりいっそう全学年で学び合うという学び舎に変わる。上級生は下級生を思いやり、下級生は上級生を尊敬することでお互いに寄り添いながら学び合う、そんな魅力ある学校づくりができる環境となる。佐見地域の皆さんには、より一層魅力的な学校活動になるようこれまで以上に積極的な関わりを頂ければ幸いである。

○20代 女性A

・先生に質問するが、資料の7ページにある小学校から中学校、中学校から小学校への乗り入れ指導に関しては、先生方の負担は無いか教えてほしい。

○佐見小学校 村上校長

・先生方はおそらくドキドキしているのと同時に小学校から中学校までつながりのある教育ができることに対し、非常に勉強をされると思う。小・中9年間の縦の系統を研究することで幅広い学びにより教育技術も伸びることが予想される。小・中を経験されている先生方ばかりでないので、今までの自分の指導を振り返りながらずっと学び続ける教員になるのではと考えている。

○佐見地区公民館 嶋田館長

・明日、佐見川ウォッチングを開催する。これは佐見川が綺麗であることを証明するための実態調査として子供達が参加する内容なのでご承知おき頂きたい。また2学期以降、新たな校舎となる佐見小学校の授業の様子、子供たちの様子をふれあいセンターで見えて頂けるようなものを考えたいので、今後も地域の皆さんのご理解ご協力をお願いしたい。

○鈴村教育長

・多くの方から貴重な意見をいただいたので、今後の参考にさせていただく。これまでに黒川地区で2回、佐見地区において説明会を開催した。どの地区でも参加できるので、今回に限らず参加をお願いする。また、保護者等への説明に関しては、PTA行事、保育園行事等の機会を利用して懇談、意見徴収は必ず行っていきたい。今回の説明会で終わりではなく、協議を重ねながら進めていくので引き続きご協力をお願いしたい。

(4) 閉会あいさつ 大岩課長 (21:00閉会)